

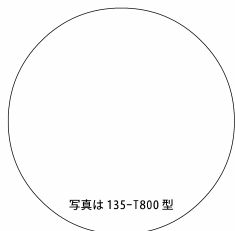
給湯暖房機

エックスマークII

取扱説明書

| 品名・機器コード | 型 式 名 | B L 品 番 | 号数 |
|-----------|------------|--------------|-----|
| 135-T800型 | GH-167PWS | XD-2804LRSWQ | 16号 |
| 135-T802型 | GH-167PTS | XD-2804LRSWQ | |
| 135-T803型 | GH-167PTNS | XD-2804LRSWQ | |
| 135-T805型 | GH-167PBS | XD-2804LRSWQ | |

このたびは給湯暖房機をお買い上げいただきましてありがとうございます。
ご使用になる前に必ずこの取扱説明書をよく読みいただき、十分に理解したうえで正しくご使用ください。
この給湯暖房機には保証書が付いています。
内容をよくご確認ください。
この取扱説明書は、いつでもご覧になれる身近なところへ大切に保管してください。
取扱説明書を紛失された場合は、お買い上げの販売店または、最寄りの大阪ガスへご連絡ください。
その際、機器本体の銘板をご覧のうえ、品名・製造年月をお知らせください。



写真は 135-T800 型

屋外設置形（B L 認定品）

| もくじ | ページ | お使いいただく前に |
|-----------------------------|-----|-----------|
| この製品の特長 | 1 | |
| 安全に正しくお使いいただくために | 1 | |
| この取扱説明書の表示について | 1 | |
| 機器本体の表示について | 1 | |
| 必ずお守りください | 2 | |
| 各部の名称とはたらき | 7 | |
| はじめて使うときには | | |
| ご利用前の準備 | 8 | |
| 機器の準備 | 8 | |
| 使い方 | | |
| お湯を使うには | 8 | |
| リモコンなしで使用する | 8 | |
| お湯を使うには(別売品のリモコンを使う) | 9 | |
| 現在時刻を合わせる | 9 | |
| (台所リモコンT38-T314型(別売品)がある場合) | | |
| 別売品のリモコンを利用して給湯温度を調節する | 9 | |
| チャイムや音声ガイドの音量を調節する | 11 | |
| 音量の設定 | 11 | |
| 暖房運転をするには | 12 | |
| 放熱器の運転/停止 | 12 | |
| 暖房静音について | 13 | |
| 暖房静音の設定/解除 | 13 | |
| 長くお使いいただくために | | |
| 冬の凍結予防をするには | 14 | |
| 点検のポイント・お手入れのしかた | 17 | |
| 故障かな?と思ったら | 19 | |
| アフターサービスについて | 22 | |
| 仕 様 一 覧 | 裏表紙 | |

大阪ガス

仕様一覧

〔仕様表〕

| 項目 | 内容 | | | |
|-----------------|--|-----------|------------|-----------|
| 品名 | 135-T800型 | 135-T802型 | 135-T803型 | 135-T805型 |
| 型式名 | GH-167PWS | GH-167PTS | GH-167PTNS | GH-167PBS |
| 外形寸法(mm)/質量(kg) | 幅248×奥行380×高さ776/29 | | | |
| 給湯方式 | 先止め式 | | | |
| 暖房方式 | 温水循環方式 | | | |
| 給排気方式 | 屋外強制排気方式 | | | |
| 設置方式 | 屋外設置形 | | | |
| 点火方式 | AC100V連続放電式(ダイレクト着火) | | | |
| 使用水圧 | 100～500kPa(1.0～5.0kgf/cm ²) | | | |
| 最低作動水圧 | 10kPa(0.1kgf/cm ²) | | | |
| 給湯量 | 3.5ℓ/分 | | | |
| 暖房能力 | 0ℓ/分以上(締切り使用可) | | | |
| 消費電力 | 180W | 80W | 200W | |
| 凍結予防作動時 | | | | |
| ガス | 20A(R3/4オネジ) | | | |
| 給水・給湯 | 15A(R1/2オネジ) | | | |
| 低温往き | QF16ジョイント | | | |
| 高温往き | QF16ジョイント | | | |
| 戻り | QF16ジョイント | | | |
| オーバーフロー | 15A(R1/2オネジ) | | | |
| 電源 | 本体電源 AC100V(50/60Hz) 台所リモコン2心 | | | |
| 安全装置 | ファン回転検出装置(回転検出方式) 過熱防止装置(温度ヒューズ) 立消え安全装置(フレイムロッド方式) 漏電安全装置(漏電リレー) 残火安全装置(バイメタル式) 誘導管保護装置(サージアブソーバー) 過圧防止安全装置(スプリング式) 凍結予防装置(電気ヒーター、ポンプ運転、燃焼) 空だき安全装置(バイメタル式) 過電流安全装置(ガラス管ヒューズ) 空だき防止装置(水量センサー・水位電極) 沸騰防止装置(バイメタル) | | | |

〔能力表〕

| 使用ガス | 1時間あたりのガス消費量kW{kcal/h} | | | 出湯能力(最大)ℓ/min | | 能力kW{kcal/h} | | ガス接続 |
|------|------------------------|----------------|----------------|---------------|----------|--------------|--|-----------|
| | 給湯・暖房同時使用 | 給湯(最大) | 暖房 | 水温+25℃上昇 | 水温+40℃上昇 | 暖房 | | |
| 都市ガス | 13A 45.1{38.800} | 34.9{30.000} | 10.2{8.800} | 16.0 | 10.0 | 8.14{7.000} | | 20A(R3/4) |
| LPガス | 45.1{3.22kg/h} | 34.9{2.49kg/h} | 10.2{0.73kg/h} | 16.0 | 10.0 | 8.14{7.000} | | |

◎ ガス：JISに規定する標準ガス、標準圧力のとき。
◎ 出湯能力は、水圧200kPa(2kgf/cm²)のときで、温度を高く設定し、水と混合させることにより可能となる最大流量の計算値をいいます。
◎ 本仕様は改良のためお知らせせずに変更することがあります。

大阪ガス株式会社

お問い合わせ先
別添 大阪ガスのお問い合わせ先
をご参照願います。

お願い ガスくさいときは、ガス栓を閉じ窓を全開にして、(火気に注意して)大阪ガスに連絡してください。

この製品の特長

快適な「お湯のある暮らし」のための便利な機能を豊富に揃えました。どうぞお役立てください。

便利です!

- シャワー・給湯も暖房も、これ1台でOK。
- 冬期、気温が下がると自動的に作動し、凍結を予防する、凍結予防装置がついています。

快適です!

- この機器は、別売の台所リモコンを取り付けることができます。
- この取扱説明書では、138-T314型の台所リモコンについて説明しています。

安全に正しくお使いいただくために

■この取扱説明書の表示について■

この取扱説明書では、機器を正しくお使いいただき万一の事故を未然に防ぐため、以下のような表示で注意を呼びかけています。

⚠ 危険

この表示を無視して誤った取扱いをすると、使用者等が死亡または重傷を負う危険、または火災の危険性が切迫して生じることが想定される内容を示しています。

⚠ 警告

この表示を無視して誤った取扱いをすると、使用者等が死亡または重傷を負う可能性、または火災の可能性が想定される内容を示しています。

⚠ 注意

この表示を無視して誤った取扱いをすると、使用者等が傷害を負う可能性および物的損害の発生が想定される内容を示しています。

お願い

ご使用になるときに、よく理解していただきたい内容を示しています。

(→P. XX 参照)

参照ページを示しています。

■絵表示については次のような意味があります。



一般的な禁止



火気禁止



接触禁止



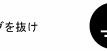
分解禁止



必ず行う



電源プラグを抜く



アースを接続せよ

■機器本体の表示について■ (図は、135-T800型を示します。)

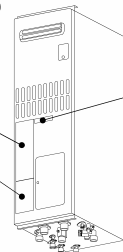
使用上の注意

使用上の注意について表示しています。

銘板

型式名・使用ガスの種類・製造年月・製造事業者等を表示しています。

品名
品名を表示しています。



必ずお守りください (安全上の注意)

安全に正しくお使いいただくために、この内容は必ずお読みください。

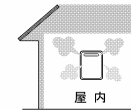
⚠ 危険

屋内設置の禁止 (屋外設置形のみ)

- この機器は屋外設置形ですので絶対に屋内に設置しない。燃焼ガスが室内に充満したり正常な給排気ができないため異常燃焼し、酸欠や一酸化炭素中毒などの原因になります。



禁止

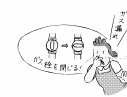


ガス漏れ時の処置

- ガス漏れに気づいたときは、
 - ①すぐに使用をやめて、給湯栓を全て閉じる。
 - ②ガス栓を閉じる。また、メーターのガス栓も閉じる。
 - ③お買い上げの販売店、または最寄りの大阪ガスに連絡する。
- すべての処置が終るまでの間絶対に
 - ・火をつけない
 - ・電気器具のスイッチの入・切をしない
 - ・電源プラグの抜き差しをしない
 - ・周辺の電話を使用しない炎や火花で引火し火災のおそれがあります。



火気禁止



⚠ 警告

機器設置 (および付帯工事)

- 屋外設置形の機器は、増改築などによって屋内状態にしない。不完全燃焼による一酸化炭素中毒や火災のおそれがあります。



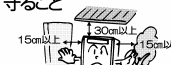
禁止

- 機器の設置・移動および付帯工事は、お買い上げの販売店、または最寄りの大阪ガスへ依頼し、安全な位置に正しく設置する。設置工事に不備があると事故の原因になります。



火災予防のために必ず守ること

機器周辺のものは常に図の離隔距離を確保する。



- 機器および排気口の周辺には紙や木材など燃えやすいものを置かない。火災の原因となります。
- 機器の周辺ではガソリン・ベンジン・スプレーなど引火性危険物を使用しない。引火して火災を起こすおそれがあります。
- 機器の周辺や上にスプレー缶、カセットコンロ用ボンベを置かない。熱でスプレー缶の圧力が上がり爆発のおそれがあります。
- 排気口は洗濯物などでおおわない。不完全燃焼の原因となります。



禁止



使用ガス、使用電源の確認

- 機器の銘板に表示してあるガス種 (ガスグループ) および電源 (電圧・周波数) で機器を使用してください。ガス種および電源が一致しないと不完全燃焼による一酸化炭素中毒になったり、爆発着火でやけどをしたり、機器が故障する場合があります。
- 転居時の注意は (→P. 22 参照)



●この機器はAC100V 50/60Hz共用です。

●この部分必ずご確認ください。

(※ 燃焼ガス1300の燃焼)

9/04 07 ~ 2004年7月の製造

製造年月を示しています。

9/04 07 ~ 2004年7月の製造

製造年月を示しています。

9/04 07 ~ 2004年7月の製造

製造年月を示しています。

9/04 07 ~ 2004年7月の製造

製造年月を示しています。

9/04 07 ~ 2004年7月の製造

製造年月を示しています。

9/04 07 ~ 2004年7月の製造

製造年月を示しています。

9/04 07 ~ 2004年7月の製造

製造年月を示しています。

9/04 07 ~ 2004年7月の製造

製造年月を示しています。

9/04 07 ~ 2004年7月の製造

製造年月を示しています。

9/04 07 ~ 2004年7月の製造

製造年月を示しています。

9/04 07 ~ 2004年7月の製造

製造年月を示しています。

9/04 07 ~ 2004年7月の製造

製造年月を示しています。

9/04 07 ~ 2004年7月の製造

製造年月を示しています。

9/04 07 ~ 2004年7月の製造

製造年月を示しています。

9/04 07 ~ 2004年7月の製造

製造年月を示しています。

9/04 07 ~ 2004年7月の製造

製造年月を示しています。

9/04 07 ~ 2004年7月の製造

製造年月を示しています。

9/04 07 ~ 2004年7月の製造

製造年月を示しています。

9/04 07 ~ 2004年7月の製造

製造年月を示しています。

⚠ 禁止

- 設置後、機器や排気口を波板やビニールなどで囲わない。不完全燃焼による一酸化炭素中毒や火災のおそれがあります。

給排気口の周囲

- 給排気口の前方にものを置かない。不完全燃焼による一酸化炭素中毒や火災のおそれがあります。

ガス接続について

- この機器のガス管の接続材料は接続です。ガス配管接続工事には専門の資格、技術が必要です。機器の設置、移動、取り外しの際には、必ずお買い上げの販売店、または最寄りの大阪ガスへご相談ください。

機器本体に無理な力を加えない

- 機器本体やガスの接続部などに乗らない。けがや機器の変形によるガス漏れ、不完全燃焼のおそれがあります。

お使いいただく前に



火気禁止

火気禁止

火気禁止

火気禁止

火気禁止

火気禁止

火気禁止

火気禁止

火気禁止

火気禁止

火気禁止

火気禁止

火気禁止

火気禁止

火気禁止

火気禁止

火気禁止

火気禁止

火気禁止

火気禁止

火気禁止

火気禁止

火気禁止

火気禁止

火気禁止

火気禁止

火気禁止

火気禁止

火気禁止

火気禁止

火気禁止

火気禁止

火気禁止

火気禁止

火気禁止

火気禁止

火気禁止

火気禁止

火気禁止

火気禁止

火気禁止

火気禁止

火気禁止

火気禁止

火気禁止

火気禁止

火気禁止

火気禁止

火気禁止

火気禁止

火気禁止

火気禁止

火気禁止

火気禁止

火気禁止

火気禁止

火気禁止

火気禁止

火気禁止

火気禁止

火気禁止

火気禁止

火気禁止

火気禁止

火気禁止

火気禁止

火気禁止

火気禁止

火気禁止

火気禁止

火気禁止

火気禁止

火気禁止

火気禁止

火気禁止

火気禁止

火気禁止

火気禁止

火気禁止

火気禁止

火気禁止

火気禁止

火気禁止

火気禁止

火気禁止

火気禁止

火気禁止

火気禁止

火気禁止

火気禁止

火気禁止

火気禁止

火気禁止

火気禁止

火気禁止

火気禁止

火気禁止

火気禁止

火気禁止

火気禁止

火気禁止

火気禁止

火気禁止

火気禁止

火気禁止

火気禁止

火気禁止

火気禁止

火気禁止

火気禁止

火気禁止

火気禁止

火気禁止

火気禁止

火気禁止

火気禁止

火気禁止

火気禁止

火気禁止

火気禁止

火気禁止

火気禁止

火気禁止

火気禁止

火気禁止

火気禁止

火気禁止

火気禁止

火気禁止

火気禁止

火気禁止

火気禁止

火気禁止

火気禁止

火気禁止

火気禁止

火気禁止

火気禁止

火気禁止

火気禁止

火気禁止

火気禁止

火気禁止

火気禁止

火気禁止

火気禁止

火気禁止

火気禁止

火気禁止

火気禁止

火気禁止

火気禁止

火気禁止

火気禁止

火気禁止

火気禁止

火気禁止

火気禁止

火気禁止

火気禁止

火気禁止

火気禁止

火気禁止

火気禁止

火気禁止

火気禁止

火気禁止

火気禁止

火気禁止

火気禁止

必ずお守りください

警告

分解禁止

- お客様で自身では絶対に分解したり修理・改造は行わない。異常作動して事故の原因となります。



分解禁止

地震・火災などの緊急時の場合

- 迅速に使用を中止し、ガス栓を閉じる。

異常時の処置について

- ① 給湯栓を開けても点火しない場合、また、使用中で火が消える場合は、ただちに使用を中止してガス栓を閉じる。
- ② 本書の「故障かな?と思つたら」(19~21ページ)に従って処置をする。
- ③ 上記の処置をしても直らない場合、または、使用中に異常な燃焼や臭気・異常音・異常な温度を感じた場合は、使用を中止してお買い上げの販売店または最寄りの大阪ガスへ連絡する。



給湯栓・ガス栓を閉じる

機器本体でのやけどに注意

- 機器の使用時または使用後しばらくは、排気口とその周辺部には絶対に手を触れない。高温になっていますのでやけどのおそれがあります。



接触禁止

注意

用途についての注意

- 一般家庭での台所・シャワー・洗面・浴槽へのお湯張りなどの給湯、暖房(乾燥)以外の用途には使用しない。思わぬ事故につながる場合があります。
- 車両・船舶への搭載はしない。振動により機器が転倒し、火災や機器故障の原因になります。

ソーラー機器について

- ソーラー機器とは絶対に接続しない。夏期にソーラーの水温が高くなるとお湯の温度制御ができなくなり、高温のお湯がそのまま出ます。やけどをしたり機器の故障原因になります。

電気事故防止

- 電源コードを切断して延長しない。電源コードがコンセントに届く範囲としてください。感電や火災の原因になります。

お子様には十分な注意を

- 浴槽にお湯張りしているときに、お子様を浴室で遊ばせない。思わぬ事故につながる場合があります。



給湯・シャワー使用時、入浴時の注意

- ① シャワーなどお湯を使う場合は最初にお湯が出ることを確認する。手のひらで温度を確かめて湯温が安定してからお使いください。
- ② 給湯使用時は出湯管(蛇口)が熱くなるので、やけどに注意する。
- ③ お湯を止めた後に再使用するとき、お湯の量を急に少なくしたとき、給水圧が下がったとき、あるいは、万一機器が故障した場合には、一瞬熱いお湯が出るため注意する。手のひらで温度を確かめて湯温が安定してからお使いください。
- ④ シャワー・給湯使用中は、使用者以外はお湯の温度を変更しない。突然、熱湯や冷水が出て思わぬ事故につながる場合があります。
- ⑤ 浴槽に入るときは、手でお湯の温度を確認して入浴する。浴槽内のお湯は上下に温度差がある場合がありますのでご注意ください。



手で温度を確かめる



禁止



- 電源プラグは根元まで完全に差し込む。差し込みが不完全な場合、感電・発熱による火災の原因になります。傷んだプラグ、緩んだコンセントは使わないでください。
- 電源プラグのほこりなどは、定期的に取る。電源プラグにほこりがたまる、湿気などで絶縁不良となり、火災の原因になります。電源プラグを抜き、乾いた布で拭いてください。
- 濡れた手で電源プラグをさわない。感電のおそれがあります。
- コンセントや配線器具の定格を超える使用や、たこ足配線などで定格を超えると、発熱による火災の原因となります。
- コンセントから電源プラグを抜くときは、プラグを持って抜く。コードを引っ張ると内部で断線して発熱や発火の原因になります。
- この機器は接地工事(アース)が必要なので、アースがされているか確認する。アースを接続せよ

お願い

市販の補助用具について

- 事故防止のため、この機器の純正部品以外は使用しないでください。
- 水圧の低い地域では泡沫水栓を使用しないでください。
- やけど対策上、別売のリモコンを使用しない場合はサーモスタート付混合水栓の使用をお勧めします。
- 混合水栓にはさまざまな種類があります。使用方法は、混合水栓の取扱説明書をご覧ください。

リモコンの扱いについて

- 別売の台所リモコンには水をかけたり、炊飯器・電気ポットなどの蒸気を当てないでください。故障の原因になります。
- リモコンはお子様がいらずに注意してください。



禁止



飲用にお使いのときは

- 機器内に長時間たまった水(たとえば朝一番の使い始めのぬるい湯が出るまで)は、飲まないで雑用水としてお使いください。



断水のとき

- 断水のときは、給湯栓を閉じ、リモコンの運転スイッチを切ってください。
- 断水が復帰した後、使い始めのお湯は飲用や調理用などには使用しないでください。飲用や調理用に適さない水が給水配管内にとまることがあります。

電源プラグを抜かない

- お手入れの際や水抜きを行い長期間使用しない場合、および凍結防止のため水抜きを行うとき以外は電源プラグを抜かないでください。

乾電池に関する注意

- 機器を取り替えた場合、旧機器は専門の業者に処理を依頼してください。もし、お客様で旧機器の処理をされる場合、乾電池を使用している機器は乾電池を取り外してから正規の処理をしてください。

雷が発生しているときの注意

- 雷が鳴り始めたらずみやかに運転を停止し、感電に注意して電源プラグをコンセントから抜いてください。雷による一時的な過電流で電子部品を損傷することがあります。
- 30分以上電源プラグをコンセントから抜いた場合は、リモコンの各設定(給湯温度・現在時刻等)を行い、表示を確認したのちご使用ください。



電源プラグを抜く



雷が鳴ったあと機器が作動しないとき

- 落雷の際に、機器内の漏電ルーターが作動したことが考えられます。この場合は電源プラグを一度コンセントから抜き、再度差し込んでください。それでも使用できないときはお買い上げの販売店または、最寄りの大阪ガスへご連絡ください。

凍結についての注意

- 凍結のおそれがあるときは、この取扱説明書のP.14「冬の凍結予防をするには」に従って処置してください。おこたると機器内の水が凍って機器が破損することがあります。

凍結したとき

- 凍結したままでは絶対に使用しないでください。
- 機器や配管が損傷した場合、高額な修理費がかかります。(有料)
- 凍結がとれたあと再使用するときは、すべての給湯栓から水が出ることを確認し、機器および配管から水漏れがないことを確認後、P.16「再使用するとき」の項以下の操作を行ってください。

停電時または電源プラグを抜いたとき

- この機器は、停電時や電源プラグを抜いたときは使用できません。
- 停電時は給湯栓を開けてください。
- 30分以上の停電の場合は、リモコンの再設定(給湯温度・現在時刻等)を行い、表示を確認したあとご使用ください。



給湯栓を開ける



お使いいただく前に

必ずお守りください

お願い

日常の点検・お手入れ

- 安全にお使いいただくために、点検・お手入れは月1回程度必ず行ってください。(詳しくはP. 17をご覧ください)
- 故障または破損したと思われるときは使用しないでください。このときご家庭で修理せず、買い上げの販売店または、最寄りの大阪ガスへご連絡ください。
- 浴槽や洗面台が、水中の微量の銅イオンと脂肪分(湯アカ)により青く着色することがあります。日々、浴槽や洗面台のお手入れをするとともに、万一起色した場合はクレンザーやアンモニア水(10%程度)等で拭き取ってください。
- オーバーフロー配管の先からスムーズに排出されるか点検してください。ゴミ等によって閉鎖されている場合は掃除を行ってください。



お願い 設置する場所や状況について

設置場所について

- 設置場所をお決めになるときは近隣の家が運転音(燃焼音、燃焼用送風機)で迷惑にならない場所に設置してください。(工事担当者にご相談ください)
- 足場などを組んだり、ハシゴ・脚立を使わないでメンテナンスができない高所などに設置しないでください。メンテナンスをお断りすることがあります。
- 堀などを増設する場合は、機器の点検・修理のための空間を確保し、空気の流れが停滞しないようにしてください。機器の点検・修理のためと、燃焼不良の発生を防止するためです。

塩ビ管の使用について

- 給水・給湯配管に塩ビ管を使わないでください。機器の使用直後に熱交換器の後沸きにより塩ビ管が破裂し、熱湯がふき出したり、多量の水漏れの原因になります。(ただし、オーバーフロー配管は除きます)

地下水や温泉水、井戸水の注意

- この機器は上水道用です。地下水や温泉水・井戸水とは接続しないでください。

ガス事故防止のために

- 使用時の点火、使用後の消火のほか、使用中も正常に燃焼していることをリモコンの燃焼表示で確認してください。

通水使用の禁止

- 運転スイッチを切った状態で、給湯栓を開けて水を出したり、シャワーを浴びないでください。機器内通水部分の結露により機器の寿命を短くします。

この機器は一般家庭用です

- 業務用のような使用がなされると機器の寿命を著しく短くします。この場合の修理は保証期間内でも有料となります。

長期間使用しないときは

- この取扱説明書P. 14の「機器の水を抜く方法」に従って、水抜きを行ってください。水が長いあいだ流れないと、一瞬濁ったお湯が出たり、冬期に凍結する場合があります。



排気ガス

- 増改築時には燃焼排気ガスが直接建物の外壁や窓・ガラス・網戸・アルミサッシなどに当たらないようにしてください。変色・破損・腐食の原因になります。
- 排気口の周囲には、排気口からの排気ガスによって加熱されて困るもの(危険物・植物・ベントなど)を置かないでください。(寒い日は排気ガスが白い煙のように見えることがあります)

給排気について

- 機器は給気・排気が十分できる場所に設置してください。給排気が不十分な場所に設置すると不完全燃焼の原因となります。

ほこり

- 砂や油煙、ベントの毛など、ほこりのたまりやすい場所には設置しないでください。ほこりが給気口をふさいで、燃焼用の送風機の性能を低下させ、不完全燃焼の原因となります。

塩害

- 海岸近くに設置するときは、潮風にさらされる場所を避けてください。機器が腐食し、故障の原因になります。

警告 床暖房についての注意

やけどに注意

- 高い温度で設定したまま長時間、座ったり寝そべったりしない。低温やけどを起こすおそれがあります。特に次のような方が使用する場合は、周りの人が注意してあげることが必要です。
 - ・乳幼児や自分の意志で体を動かせない方
 - ・疲労の激しいとき
 - ・お酒や睡眠薬を飲まれた方
 - ・皮膚や皮膚感覚の弱い方



注意

床についての注意

- 床に水などがこぼれたらすみやかに拭きとる
- 床面に水・薬品・しゅう油などをこぼしたままにしておきますと、床暖房の放熱板が腐食することがありますので、すみやかに拭きとってください。

床へは衝撃を加えない

- 床が破損し、水漏れのおそれがあります。

床仕上材の上に敷物を敷かない

- 木質フローリングをお使いの場合、カーペットなどの敷物を敷かないでください。性能が発揮できない場合や、床暖房の熱がこもって、フローリングが変形、変色することがあります。

用途についての注意

- 床暖房を他の目的に使用しない。特殊な用途(例えば衣類の乾燥や動物の飼育、植物の栽培、食品の保存など)には使わないでください。

床下防腐処理について

- 床暖房および配管類に処理剤が付着すると腐食することがありますので注意してください。

火災予防

- 床暖房の上にスプレー缶・ライター等を置かない。爆発や火災のおそれがあります。

床についての注意

- 床暖房を設置している床面に、突起物(釘・画びょう・きり・ダニ防虫剤の注射針・はさみなど)を落としたり刺したりしないでください。水漏れの原因になります。

家具などを直接床に置かない

- 床暖房の上に、調度品・家具などを置きますと家具等に熱がこもり、ひずみ等が発生するおそれがあります。

重いものはそのまま置かない

- ピアノなど重量物はバットなどを敷いて一箇所に荷重がかからないよう設置してください。床が破損し、水漏れのおそれがあります。

ホットカーペットとの併用はしない

- 床仕上材が変形、変色するおそれがあります。

カーペットの張替えについて

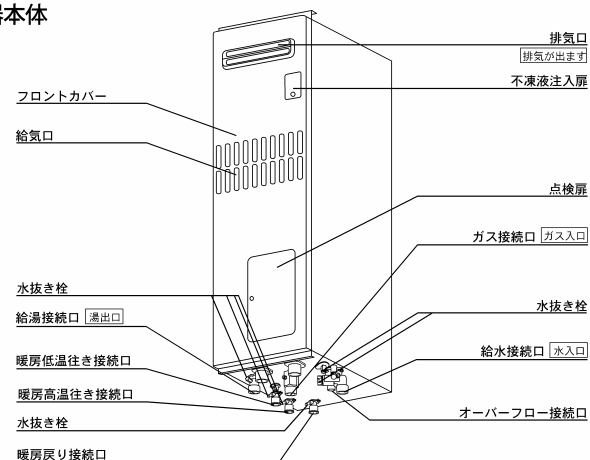
- 張替える場合には、床暖房を破損しないように、グリッターにて固定するようにしてください。釘あるいはびょうで固定するのは避けてください。また、交換を考えて、全面接着することは避けてください。

床暖房以外の放熱器についての注意は、放熱器の取扱説明書にあります。放熱器の取扱説明書をよくお読みください。

お使いいただく前に

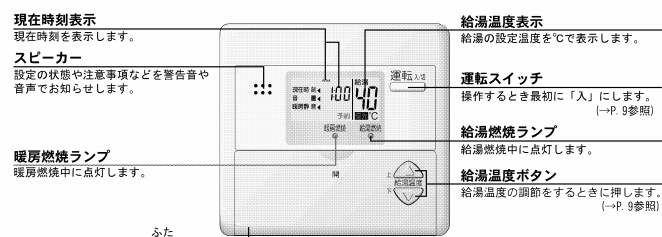
各部の名称とよさ

■機器本体

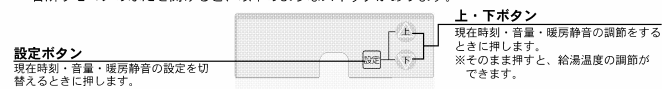


■台所リモコン 138-T314型(別売品)

給湯暖房機用の台所リモコンです。
給湯温度の設定操作ができます。また、暖房運転中の運転音が気になるときには、暖房静音にすることもできます。
※図のリモコンの画面表示は説明用で、実際の運転状態を示すものではありません。



台所リモコンのふたを開けると、以下のようなスイッチがあります。



ご利用前の準備

はじめてお使いになるときは、まず屋外にある機器の準備をします。準備ができた後、リモコンのスイッチを入れてみましょう。

■機器の準備

| | | |
|--|---|--|
| 1 確認を行います 機器や機器周辺の点検・確認を行います。(→P. 17 参照) | 2 給水元栓を全開にします 機器の下部にあります。 | 3 給湯栓を開けます 水が出ることを確認したら閉じます。 |
| 4 ガス栓を全開にします 機器の下部にあります。 | 5 電源プラグを差し込みます コンセントは機器周辺にあります。 | |

お湯を使うには

■リモコンなしで使用する

給湯栓を開けば、お湯が出ます。お湯の温度は約60℃の高温(一定)になります。必ず混合水栓をお使いください。

| | |
|---------------------------------|--|
| 1 給湯栓を開けてお湯を出します | 2 水を混ぜて温度を調節します 使い終わったら、給湯栓・給水栓を閉じてお湯を止めます |
|---------------------------------|--|

警告 ●給湯、シャワー等を使うときは、給湯温度を確認し、手で温度を確かめてから使う。確認をおこたるとやけどのおそれがあります。

× ●やけどを防ぐため、サーモスタット付混合水栓の使用をお勧めします。

お使いいただく前に

はじめて使うときは

使い方

お湯を使うには（別売品のリモコンを使う）

■現在時刻を合わせる（台所リモコン138-T314型（別売品）がある場合）

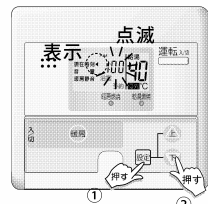
1 台所リモコンの運転スイッチを押します



リモコンの画面に図のような表示がされます。

- ※電源投入後、リモコンが表示するまで多少時間がかかります。
- ※電源投入直後は、イラストの表示とは異なります。

2 リモコンのふたを開けて、設定ボタンを押して現在時刻を設定します



- △ボタンは時刻が進みます ※ボタンを押し続けると、連続的に数字が変わります。
- ▽ボタンは時刻が戻ります

- ①設定ボタンを押し、△を現在時刻の右側に表示させ、現在時刻表示が点滅していることを確認します。音声ガイドが流れます。
“現在時刻です 上下ボタンで入力してください”
- ②△または▽ボタンを現在時刻表示が点滅している間（約10秒間）に押してください。
△・▽ボタンで入力後、しばらくたつと確定となります。
音声ガイドが流れます。
“現在時刻、セットされました”

- 出荷時の時刻表示は「AM1:00」になっています。AM（午前）・PM（午後）に注意してください。
- 設定時に△または▽ボタンを押さないでいると約10秒後に確定となりますが、音声ガイドは流れません。

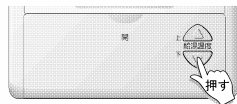
■別売品のリモコンを利用して給湯温度を調節する

1 運転スイッチ「入」を確認します



「入」になっていないときは、運転スイッチを押します。

2 給湯温度を調節します



給湯温度△または▽ボタンを押して
お好みの温度に設定します。

- △ボタンは給湯温度が1段階ごと上がります。
- ▽ボタンは給湯温度が1段階ごと下がります。

給湯温度は以下の14段階で設定できます。

| ご使用の目安 (単位:℃) | | | | | | | | | | | | | |
|---------------|-----------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|----|----|----|
| 37 | 38 | 39 | 40 | 41 | 42 | 43 | 44 | 45 | 46 | 47 | 50 | 55 | 60 |
| 食器洗いなど | シャワー・給湯など | | | | 給湯など | | | | 高温 | | | | |

40: 工場出荷時

3 給湯栓を開けます



台所リモコンでは給湯燃焼ランプが点灯します。

4 給湯栓を閉じます



台所リモコンでは給湯燃焼ランプが消灯します。
ただし、他の給湯栓やシャワーを使用中のときは
消えません。

お湯を使うときの注意

- ⚠警告 ●給湯、シャワー等を使うときは、給湯温度を確認し、手で温度を確かめてから使う。確認をおこたるとやけどのおそれがあります。
- シャワー使用中に台所リモコンで給湯温度調節を行うと、シャワーの温度が変動し、危険です。必ず、給湯温度を確認してから使用してください。

❗ご注意ください

- 給湯栓を閉しても機器の燃焼用ファンがしばらく回転しますが、故障ではありません。

お願い

- 表示している温度と給湯栓から出る湯温は、配管の長さや外気温等により必ずしも一致しません。表示温度は目安としてお考えください。
- 使いはじめは給湯配管の水が流れ出るまでしばらくお湯が出ません。（配管の長さによりお湯が出るまでの時間が異なります）
- 給湯栓をしほり過ぎると、熱いお湯が出たり、燃焼が停止して水になることがあります。
- 水温が30℃近くになる夏期では、低温にセットしても給湯栓の湯量が少なくと給湯温度が高くなります。この場合は給湯栓をさらに開けて湯量を多くするか、水と混合してお使いください。

給湯温度を調節するときの注意

❗ご注意ください

- 50℃、55℃、60℃に給湯温度を設定するとチャイムが鳴り、音声ガイドが“熱い温度にセットされました 注意してください”とお知らせします。

お願い

- 55℃以下の温度でシャワーや給湯を使っているときは、やけど防止のため60℃には設定変更ができません。設定したいときは、一旦使用を止めてから行ってください。
- 通常、給湯温度は運転スイッチを「切」にしても記憶されていますが、給湯温度を60℃に設定したときはやけど等の危険防止のため、再度運転スイッチを入れたとき自動的に55℃にセットされます。
- はじめてお使いのときや停電時、電源プラグを抜いた場合など、30分以上通電が止まって再通電したときは、給湯温度表示が40℃になります。再度セットし直してください。

チャイムや音声ガイドの音量を調節する

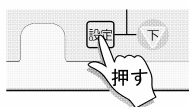
音量の設定

1 運転スイッチ「入」を確認します



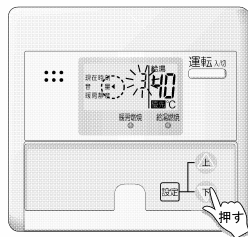
「入」になっていないときは、運転スイッチを押します。

2 リモコンのふたを開け、設定ボタンを押します



設定ボタンを押し、**音量**の右側に表示させ、音量表示が点滅していることを確認します。
音声ガイドが流れます。
“音量です 上下ボタンで入力してください”

3 音量を設定します



△・▽ ボタンを音量表示が点滅している間に押します。

△ ボタンは音量が大きくなります。

▽ ボタンは音量が小さくなります。

0 (無音) 1 (小) 2 (中) 3 (大) ■ 工場出荷時

△・▽ ボタンで入力後、しばらくたつと確定となります。
音声ガイドが流れます。
“音量、セットされました”



- 設定した音量は、運転スイッチを「切」にしても記憶されています。
- 設定時に△または▽ ボタンを押さないでいると約10秒後に確定となりますが、音声ガイドは流れません。
- 音量を無音に設定すると音声ガイドは流れません。
- スイッチやボタン操作時の音、警告音“ピッピッピ”の音は調節できません。
- 設定ボタンを順に押して「現在時刻」「音量」を続けてセットすることもできます。セットすると音声ガイドが「現在時刻、音量セットされました」と設定した項目についてお知らせします。
- 上記のように続けてセットする場合、設定ボタンは以下のように操作します。

設定ボタン → 1回押す → 2回目
現在時刻 音量

暖房運転をするには

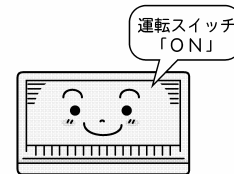
システムエアコン、放熱器、床暖房などを使用できます。操作はそれぞれの取扱説明書をご覧ください。

■放熱器の運転／停止

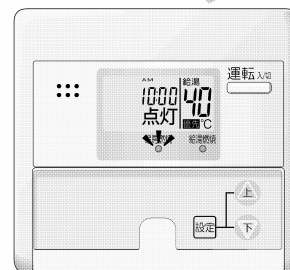
〈放熱器に運転スイッチがあり、信号線を接続している場合〉

放熱器の運転

放熱器の運転スイッチ「入」にします。
台所リモコンのふろ/暖房燃烧ランプが点灯します。
しばらくしてファンが回り、暖かい空気が出てきます。

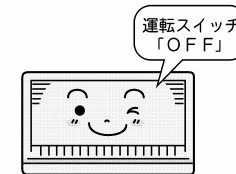


放熱器の
運転スイッチ
押す

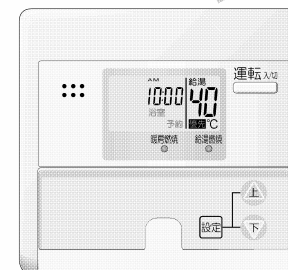


放熱器の停止

放熱器の運転スイッチ「切」にします。
台所リモコンのふろ/暖房燃烧ランプが消灯します。
放熱器の運転が停止します。



放熱器の
運転スイッチ
押す



※運転スイッチが「切」の場合でも暖房燃烧ランプが点灯します。



- リモコンの運転スイッチの「入」/「切」に関係なく暖房運転できます。
- 放熱器の運転方法・温度調節の方法については、放熱器の取扱説明書をご覧ください。
- 暖房水は自動的に補給されますので、給水元栓は開けたままにしておいてください。

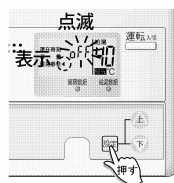
暖房運転をするには

■暖房静音について

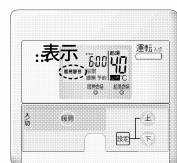
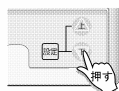
暖房静音は、暖房運転音を通常より静かにする機能です。この際、暖房能力は少し低下します。一度、暖房静音をセットしておけば、運転「切」の状態でも、毎回暖房静音運転になります。ただし、停電や電源プラグを抜くなどして30分以上通電が停止したときは、再びセットが必要です。

■暖房静音の設定/解除 工場出荷時にはOFFに設定されています。

暖房静音の設定



設定ボタンを3回押し、**静音**が暖房静音の右側に点灯して表示が点滅していることを確認します。
音声ガイドが流れます。
“静音です 上下ボタンで入力してください”



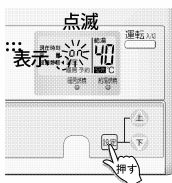
△または▽ボタンでON表示を選択後、しばらくたつと確定となります。
音声ガイドが流れます。
“静音、セットされました”

※運転スイッチが「切」の場合でも暖房静音表示が表示されます。

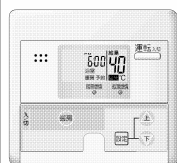
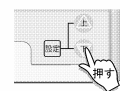


- リモコンの運転スイッチ「入」/「切」に関係なく暖房静音の設定ができます。
- 暖房静音運転中に給湯運転を行うと、暖房運転音が静かにならない場合がありますが、異常ではありません。

暖房静音の解除



設定ボタンを3回押し、**静音**が暖房静音の右側に点灯して表示が点滅していることを確認します。
音声ガイドが流れます。
“静音です 上下ボタンで入力してください”



△または▽ボタンでOFF表示を選択後、しばらくたつと暖房静音表示が消え解除となります。
音声ガイドが流れます。
“静音、解除されました”

冬期の凍結予防をするには

凍結を予防するための操作について説明します。

給湯

■凍結予防装置による方法

通常の寒さのとき

この機器には、気温が下がってくると自動的に凍結予防ヒーターが作動し、機器内を保温する凍結予防装置がついています。機器の電源プラグをコンセントに入れた状態にしておけば、機器内の凍結は予防できます。これらの装置は、運転スイッチの「入」/「切」に関係なく作動します。

寒波などで特に寒くなりそうなときは、給湯栓の水を流す方法または、機器の水を抜く方法で凍結予防をしてください。

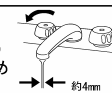
お願い

- 自動凍結予防装置は電源プラグを抜くと作動しません。絶対に電源プラグを抜かないでください。
- 機器内の凍結は予防できますが、配管は凍結することがあります。配管は必ず保温材で被覆してください。
- 次の朝、お使いになるときは、給湯栓を開けて水が出ることを確認してから、運転スイッチを「入」にしてください。

■給湯栓の水を流す方法

この方法は機器本体だけでなく、給水・給湯配管やバルブ類および給湯栓の凍結予防に有効です。

- 1 運転スイッチを押してリモコンを「切」にします。
- 2 浴室の給湯栓を開け、1分間に400cc（牛乳びん2本くら）の水を流し続けます。流量が不安定なことがありますので、念のため30分程後にもう一度流量を確認してください。



- 給湯栓の水を流す方法で凍結予防をしているときは、家の人に凍結予防のため水を出していることをお知らせください。水を止めると凍結します。

■機器の水を抜く方法

入居前や長期不在で家の電気ブレーカーを「切」にする場合や、電源プラグを抜く必要がある場合には、この方法で機器内の水を排水し凍結予防をします。排水後は、次にお使いになるまでそのままにしておいてください。

注意

- 使用後すぐに水抜きをしない。ヤケなどのおそれがあります。機器やお湯が高温になっていますので冷えてから行ってください。

- 1 ガス栓を閉じます。



- 2 給水元栓を閉じます。



- 3 全ての給湯栓を全開にします。



- 4 水抜き栓 (1) (2) を外します。



- 5 必ず電源プラグを抜きます。



以上の操作で機器内の水は排水されますので、次にお使いになるまでそのままにしておいてください。

お願い

- 水抜きをするとき床などに水が流れては不都合な場所では、あらかじめ容器を用意して水を受けてください。

冬期の凍結予防をするには

暖房

■凍結予防装置による方法

通常の寒さのとき

この機器には、気温が下がってくると自動的に暖房タンクの水（湯）を循環して暖房運転（燃焼）し、暖房回路内の水を暖め凍結を予防します。回路内が暖まると暖房運転を停止します。通常は機器および放熱器の電源プラグをコンセントに差し込まれた状態にし、ガス栓を開いておけば凍結予防できます。凍結予防装置は運転スイッチの「入」/「切」に関係なく作動します。

寒波などで特に寒くなりそうなときは、不凍液による方法または、機器の水を抜く方法で凍結予防をしてください。

- お願い**
- 方法は放熱器によって異なります。
 - 電源プラグがコンセントから抜けていたり、電源ブレーカーが切れていると作動しませんのでご注意ください。
 - この方法では、機器内の凍結は予防できても配管は凍結することがありますので、必ず保温材や電気ヒーターを巻くなどの措置をしてください。

■不凍液による方法

- 寒冷地では不凍液を使用してください。
- 暖房システムの凍結予防のために指定された不凍液を使用してください。指定以外の不凍液は機器に悪影響を与える場合がありますのでご注意ください。
- 不凍液は、不凍液の取扱説明書に記載されている方法で正しく使用してください。

■機器の水を抜く方法（不凍液が入っている場合、水抜き操作は行いません）

入居前や長期不在で家の電気ブレーカーを「切」にする場合や、電源プラグを抜く必要がある場合には、この方法で機器内の水を排水し、凍結予防します。排水後は、次にお使いになるまでそのままにしておいてください。

- △注意**
- 使用後すぐに水抜きをしない。やけどのおそれがあります。
 - 機器やお湯が高温になっていますので冷えてから行ってください。

- 給湯の水抜き操作に引き続き暖房の水抜きを行う場合は、再度電源プラグを差し込みます。

暖房回路内の水を抜きます

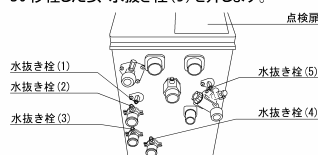
- 1 ガス栓が閉じていることを、確認します。



- 2 給水元栓を閉じていることを、確認します。



- 3 水抜き栓 (1) (2) (3) (4) を外します。30 秒程したら、水抜き栓 (5) を外します。



- 4 完全に水がでたら、電源プラグを抜きます。



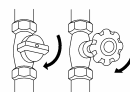
- お願い**
- 水抜きの操作をすると、機器本体だけでなく配管や放熱機内の水も出できます。水が流れては都合な場所では、あらかじめ容器を用意して水を受けてください。

■凍結してしまったとき

凍結したときは、給湯栓を開けても水がでできません。

解凍するまで待つて、次の操作により水が出ることを確認してから運転してください。

- 1 ガス栓・給水元栓を閉めます。



配管が破裂していた場合の水漏れを防止する目的です。

- 2 リモコンの運転スイッチを「切」にします。



- 3 ときどき、給水元栓と給湯栓を開けて、給湯栓から水が出ることを確認します。水が出てくれれば使用できます。給水元栓を開け、機器および配管から水漏れがないことを確認してください。ガス栓を開けます。

- 4 リモコンの運転スイッチを「入」にします。

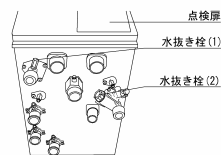


- お願い**
- 取扱説明書に従った凍結予防の処置をせずに機器や配管が破損すると、高額な修理費（有料）がかかる場合があります。
 - 給水・給湯配管が凍結すると配管や給湯栓が破損することがあります。解凍後は、全ての給湯栓を閉じてから水道メーターを見るなどして、水漏れしていないことをご確認ください。
 - 機器や配管が破損し、水漏れで壁を汚したり、階下を濡らした場合の修理費用はおお客様の負担となります。

■再使用するとき

機器内の水を排水したあと、しばらくして再度使用するときには次の操作をしてください。

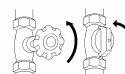
- 1 水抜き栓 (1) (2) を閉じます。



- 2 全ての給湯栓を閉じます。



- 3 給水元栓を開け、水漏れがないことを確認し、ガス栓も開けます。



- 4 電源プラグをコンセントに差し込みます。



- 5 リモコンの給湯温度・現在時刻等を設定し直します。（→P. 9～参照）

通水後初めての暖房使用で、リモコンにアラーム番号“543”“173”が出る場合放熱器側の運転とリモコンの運転スイッチを一旦「切」にし、機器の給水元栓が開いていること・すべての暖房水抜き栓が閉まっていることを確認し、電源プラグを抜き、再度電源プラグを差し込んで再使用してください。

- メモ**
- 再使用するときは、水抜き栓を元通りに確実に閉じてください。閉じかけが不十分だったり閉じ忘れがあると、そこから水漏れします。

長くお使いいただくために

点検のポイント・お手入れのしかた

■点検のポイント（月1回程度）

次の6つのポイントで点検してください。

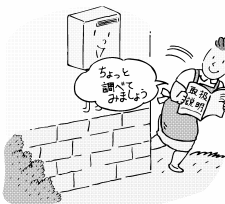
- 1 機器および配管から水漏れはありませんか？
水漏れは、機器の故障だけでなくお隣や階下の方にも多大な迷惑をかけます。
- 2 機器および配管からガスの臭気がしませんか？
- 3 運転中に機器から異常音が聞こえませんか？
- 4 機器の外観に異常は見られませんか？
- 5 機器のまわり、および排気口のそばに燃えやすいものはありませんか？

また、整然とされていますか？

機器のまわりに雑草や木くず・箱などで雑然としていると、機器の内部に害虫（ゴキブリなど）が侵入したり、くもの巣がはったりして、機器の故障などの原因になります。

- 6 給気口・排気口への積雪や、屋根から落ちた雪により排気口が塞がれていませんか？

給気口・排気口が塞がれていると、機器が不完全燃焼することがあります。積雪時には給気口・排気口の点検、除雪を行ってください。屋根から落ちた雪が給気口・排気口を塞くおそれがあるときはお買い上げの販売店または、最寄りの大阪ガスへご連絡ください。



■お手入れのしかた（月1回程度）

機器本体およびリモコンのお手入れ

- 汚れは、水にぬらしたやわらかい布をかたく絞って、軽くふき取ってください。
- シンナー・ベンジンなどは使わないでください。
変色・変形する場合があります。



■定期点検のおすすめ（有料）

- ご使用上支障がない場合でも、不慮の事故を防ぎ、安心してより長くご使用いただくために、年一回程度の定期点検をおすすめします。お買い上げの販売店、または最寄りの大阪ガスへご相談ください。

⚠ 警告 ●フロントカバーを外したり、リモコンを分解したりしない。

❗ ご注意ください

- 機器本体のお手入れは、ガス栓を閉じ、電源プラグを抜き、機器が冷えてから行ってください。また、怪我などしないよう、指先には十分注意してください。
- 給湯栓の先端に泡沫器が内蔵されているものについては、ときどき内部のフィルター（金網）を掃除してください。
- 台所リモコンは水をかけないようにしてください。リモコンの内部には電気部品が入っていますので故障の原因となります。

- お願い ●洗剤およびシンナー、ベンジンなどでは拭かないでください。
●水圧の低い地域では泡沫器は使用しないでください。



分解禁止

■給水口フィルターの掃除

給水口フィルターが詰まるとお湯の出が悪くなったり、お湯にならない場合があります。そのときは、次の要領で給水口フィルターを掃除してください。（特に、新築等の場合）

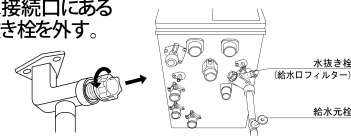
- 1 給水元栓を開いて、給湯栓を開ける



- 3 歯ブラシなどで洗う。



- 2 給水接続口にある水抜き栓を外す。



- 4 元のように取り付ける。



■点検・お手入れ後の確認

点検・お手入れ後はガス栓を開いて、運転スイッチを「入」にしてから給湯栓を開き、機器が正常に作動していることを確認してください。万一、異常な燃焼・臭気・音を感じられたときは、使用を中止し、ガス栓を閉じてお買い上げの販売店または、最寄りの大阪ガスへご連絡ください。

- お願い ●給水口フィルターを外すと水が出ます。
水が流れては不都合な場所では、あらかじめ容器を用意して水をつめてください。
●再使用するときは、水抜き栓を元通りに確実に閉めてください。閉じかたが不十分だったり閉じ忘れたりすると、そこから水漏れします。

長くお使いいただくために

故障かな?と思ったら

こんなとき

ここを調べてください

お湯が出ない
お湯が出ないリモコンの給湯
燃焼ランプが点灯しない

ガス栓が全開になっていますか (→8ページ)
給水元栓が全開になっていますか (→8ページ)
断水していませんか
給湯栓が十分開いていますか (→8・10ページ)
電源プラグがコンセントにしっかり
差し込まれていますか (→8ページ)
停電していませんか
凍結していませんか

高温のお湯が出ない
低温のお湯が出ない

給湯栓が十分開いていますか (→8・10ページ)
温度調節は適切ですか (→9ページ)
混合水栓やサーモミキシングバルブを使用し、高温
のお湯が出ない場合は、リモコンの給湯温度を60℃
にセットしてください

使用中に消火した

ガス栓が全開になっていますか (→8ページ)
断水していませんか
給湯栓が十分開いていますか (→8・10ページ)
設定温度が低過ぎませんか (→9ページ)

暖房がきかない(ききが悪い)

ガス栓が全開になっていますか (→8ページ)
放熱器の温度設定は適切ですか
床暖房は暖まるまでに時間がかかる場合があります

リモコンの画面に
表示が出ない

電源プラグがコンセントに差し込まれていますか (→8ページ)
停電していませんか (→4ページ)

それでもわからないときはアフターサービスをお申し付けください。

故障かな?と思っても、よく調べてみると故障ではない場合もあります。
まずは次の点を確認してください。

■こんな時は故障ではありません

現象

点検項目

給湯栓を絞りすぎて水になった

この機器は通水量が約3.5ℓ/分以下になったときには消火
します。

夏期水温が高いとき
低温のお湯が出ない

夏期など、水温が高いときに低温のお湯を少量得ようとす
ると、湯温が高くなります。給湯栓をもっと開いて出湯量
を多くすれば湯温は安定します。

お湯が白く濁って見える

これは水中に溶け込んでいた空気が熱せられ、大気圧まで
急速に減圧されることで細かい泡となって出てくる現象
です。ビール、サイダー等の泡と似た現象であり汚濁とは違っ
て、まったく無害なものです。

洗面台が青く見える

湯アカが残っていると、水中の微量の銅イオンと化合して青
く変色することがあります。掃除はこまめに行ってください。

寒い日排気口から白い湯気
が出る

外気温が低いときには排気ガスの水蒸気が白い湯気となりま
す。故障ではありません。

給湯栓を開いてもすぐに
お湯が出てこない

機器から給湯栓までは距離がありますので、お湯が出て
くるまでには少し時間がかかります。

出湯停止後しばらくファンの
回転音がする

再使用時の点火をより早くするため、しばらくの間は回転
しています。

時計表示が合っていない

30分以上の停電後、再通電すると表示画面がAM1:00になり
ます。なお、温度設定等も初期状態に戻りますので再設定
してください。

給湯栓を開けたとき
お湯の量が変動する

湯温を安定させるために自動的に湯量調整しています。
すぐに湯量は安定します。

暖房ポンプがときどき
自動的に回る

エア抜きをするためと、ポンプの固着を防止するための
機能ですので故障ではありません。

床暖房を使用していないのに
床が暖まることもある

暖房回路内にたまった空気を抜くために、約1ヶ月ごとに
ポンプが自動的に回ります。このときに他の暖房端末(浴
室暖房等)を使用していると、床の温度が一時的に若干上
昇する可能性があります。

以上のことをお調べのうえ、なお異常のあるときは
買い上げの販売店、または最寄りの大阪ガスへご連絡ください。

長くお使いいただくために

故障かな?と思ったら

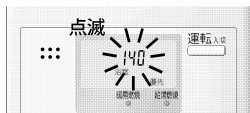
■リモコン(別売品)にアラームが表示されたとき

- 不具合が生じたとき、その原因をアラーム番号でお知らせします。原因に応じて表示部にアラーム番号が表示点滅し、自動的に運転が停止します。
- アラーム番号が表示点滅したときは、お買い上げの販売店、または最寄りの大阪ガスへご連絡ください。そのときは、表示されているアラーム番号もお知らせください。

| アラーム番号 | 内 容 | 処 置 方 法 | 使 用 状 態 | アラーム番号 | 内 容 | 処 置 方 法 | 使 用 状 態 |
|--------|------------------------|--------------|---------|--------|----------------|---------|---------|
| 011 | 給湯60分以上連続使用 | 給湯栓を閉じてリセット | 給湯 | 393 | サーモカップル異常 | | 給湯・暖房 |
| 030 | 未対応ガス漏過誤 | 修理を依頼する | | 433 | 暖房水位検出異常 | | 給湯・暖房 |
| 032 | 凍結予防水抜き異常 | 給湯元栓を閉じてリセット | 凍結予防水抜き | 510 | 元ガス電磁弁故障 | | 給湯・暖房 |
| 100 | 暖房燃焼異常警告 | 修理を依頼する | 給湯・暖房 | 513 | 暖房ガス電磁弁故障 | | 給湯・暖房 |
| 111 | 給湯側点火不良 | 給湯 | | 543 | 暖房回路差水異常 | | 給湯・暖房 |
| 113 | 暖房側点火不良 | ガス検知器後リセット | 暖房 | 610 | 燃焼ファン回転異常 | | 給湯・暖房 |
| 121 | 給湯側失火 | | 給湯 | 623 | ポンプ異常 | | 給湯・暖房 |
| 123 | 暖房側失火 | | 暖房 | 650 | 能力分配弁異常 | | 給湯・暖房 |
| 140 | 望み安全装置動作 元ガス電磁弁回路不良 | | 給湯・暖房 | 661 | ミキシング弁異常 | | 給湯・暖房 |
| 170 | 熱交換機過熱 | | 給湯・暖房 | 700 | ガス比例弁回路異常 | 修理を依頼する | 給湯・暖房 |
| 173 | 暖房回路差水異常 | 修理を依頼する | 給湯・暖房 | 710 | ガス電磁弁駆動回路不良 | | 給湯・暖房 |
| 311 | 出湯温サーミスタ断線 | | 給湯・暖房 | 720 | 暖房保火炎 | | 給湯・暖房 |
| 313 | 暖房サーミスタ断線 | | 給湯・暖房 | 740 | 台所リモコン通信異常 | | 給湯・暖房 |
| 321 | 入水温サーミスタ断線 | | 給湯・暖房 | 760 | インテリジェントハル通信異常 | 各端末との通信 | |
| 323 | 凍結予防サーミスタ断線 | | 給湯・暖房 | 763 | 燃焼温度異常 | 各端末との通信 | |
| 331 | 混合温サーミスタ断線 | | 給湯・暖房 | 903 | 排気リサイクル異常警告 | | 給湯・暖房 |
| 343 | 暖房低温サーミスタ異常 | | 給湯・暖房 | 990 | 自己診断燃焼異常 | | 給湯・暖房 |

リセット操作 運転スイッチを一度「切」にし、3秒以上経過してから、運転スイッチを「入」にする。

ご連絡のときは、リモコンに表示されたアラーム番号をお知らせください。
アラーム番号は、時計表示部3桁に点滅します。



❗ご注意ください

- 機器のオーバーフローから、絶えず水が流れている場合は、補給水電磁弁の故障の可能性がります。このような場合は、お買い上げの販売店、または最寄りの大阪ガスへご連絡ください。

■こんな場合には安全装置が働きます ()はアラーム番号

- 寒いとき、機器の電気ヒーターが働き機器内の凍結を防止します。……凍結予防装置
- バーナーが正常に燃焼しないとき作動し、ガスが自動的に停止します。(121・123) ……立消え安全装置
- 電気回路に漏電が生じた場合に電気を停止します。……………漏電安全装置
- 給水されていないのに燃焼している場合にガスを止めます。(720) ……残火安全装置
- 機器の温度が異常に上昇した場合にガスを止めます。(140) ……過熱防止装置
- 機器内の水圧が異常に上昇した場合に機器の損傷を防止します。…過圧防止安全装置



- アラーム番号“111”・“121”が表示されたときは、給湯栓を閉じるにより、アラームが解除される場合があります。

アフターサービスについて

サービスを依頼されるときは

- 19～21ページの「故障かな?と思ったら」の項を確認ください。それでも直らない場合、あるいはご不明の場合には、ご自分で修理なさらないで、お買い上げの販売店、または最寄りの大阪ガスへご連絡ください。
- アフターサービスをお申しつけの際は、次のことをお知らせください。
 - (1)氏名・住所・電話番号・道順(付近の目印等)
 - (2)品名(例)135-T800型
(ガスの種類例えば13A)
 - (3)現象(故障または異常内容、アラーム番号などできるだけ詳しく)
 - (4)訪問ご希望日

転居または機器を移設される場合

- ガスの種類が、異なる地域へ転居される場合は、調整・改造の必要があります。お買い上げの販売店、または転居先のガス会社へご相談ください。
- 増改築などのため機器を移設される場合、工事には専門の技術が必要となりますので、必ずお買い上げの販売店、または最寄りの大阪ガスへご連絡ください。
- 設置場所の選定にあたっては、運転音や振動が大きく伝わらないような場所をお選びください。また、機器本体の排気口からの温風や運転音が隣家の迷惑にならないような場所を選ぶなど、ご配慮ください。
- 転居、移設にともなう調整や工事の費用は、保証期間内でも有料となります。

保証について

- この給湯暖房機には保証書が付いています。必ず「販売店名・購入日」等の記入をお確かめになり、保証内容をよくお読みの後、大切に保管してください。
- 保証書を紛失されますと、保証期間内であっても修理費をいただくことがありますので、大切に保管してください。
- 保証期間経過後の故障修理については、修理により製品の機能が維持できる場合は、ご希望により有料で修理いたします。

補修用性能部品の保有期間について

- この製品の補修用性能部品(機能維持のために必要な部品)の保有期間は製造打ち切り後10年です。ただし、保有期間経過後であっても補修用性能部品の在庫がある場合は有料で修理いたします。

アフターサービス等についてわからないとき

- お買い上げの販売店、または最寄りの大阪ガスへお問い合わせください。

長期間使用しない場合

- 長時間使用しない場合は次の操作をしてください。
 - (1) ガス栓を閉じます。
 - (2) 給水元栓を閉じます。
 - (3) 機器の水抜きを行います。
(水抜き方法は、14・15ページを参照してください)
 - (4) 電源プラグを抜きます。